

三寶寺報恩講

二〇〇五年十一月十二日(土)

式次第

伽陀 先請弥陀

表白「正信偈」

真四句目下

五淘六首引

五淘回向

法話「仏法僧(三寶)への歩み」

住職 釋法薫

チャリティーバザー(売上金・一万八千二百五十円(追加一万円含)・パキスタン地震災害義援金として真宗大谷派東京教務所に寄付金として早急に送金致しました。ご協力に感謝します。)

報恩講までの流れ

十一月六日(日) 仏具のおみがき会

十日(木) 稻吉様ご来寺

御懇志とチャリティーバザー用品

十一日(金) 井伊様、井村様ご来寺

御懇志とチャリティーバザー用品

井村様はお嬢様の酒井様、孫娘の紫帆ちゃん(一才六ヶ月)と御一緒にご来寺され、その時、

「四月八日の花まつり(仏子の誕生を祝う初参式)に参加し、その後も手を合わせる生活をさせていただいておりませんが、先日娘の紫帆が散歩の時、突然立ち止まって、ガードレールを棒で



総代の挨拶

たたいて合掌をしたのです」という話をお聞きしました。

ガードレールの音は、輪(リン)の鐘としてみなしたのでしょいか。仏法が身につけているのですね。鐘の音は、御恩(ゴオン)の中に生き、生かされていくということでしょうか。いつも法話会には、お子さまと一緒に来寺下さいます。お寺はお子さまが法や人々、社会との出会いの場となり、人への奉仕なる仕事を与えられる場になるのです。お子さま方は次の時代を背負う人として、大切にされるのです。

三寶寺では、報恩講にいたるまで、四月の花まつり・初参式を通して、釈迦の誕生と仏子としての誕生を同じものとしてお祝いをしており、将来的には稚児行列も考えております。寺の行事を通して、親もまた阿弥陀如来の子であるが、仏法は子が親に従えということを強調するものでなく、次の世代を負う預かりものの子に対して、慈悲なる親へと成長させていただく中で、如来の護持養育(生老病死)を受けとつて、国や寺、人々の手をかりて、乗りこえていけることを教えます。三寶寺と僧伽となっている。報恩講は、親鸞さまの教えをいただく命日です。

三寶寺報恩講出席者 (一隅を照らす 国の宝なり)

総代 溝淵信一様 「三寶寺の発展のために尽力いたします。皆様と共に三寶寺が発展されるように御協力をお願い申し上げます。また、本山の瓦懇志に御協力をお願い申し上げます。」

荻原様 「なるようになる、なるようになるらしめんの言葉を力強く教えといたできました。」知人のSさんが病気になる時、経済面でどうなるのかと心配されていました。しかし、医療費も無料となり、「なるようになるらしめん」はSさんの愚痴より、いろいろな人々のお力を借り、いろいろな障害を乗り越えることですよ、と言えるようになりました。その心のよりどころに、私だけでは何もできない、必ず人生はなるようになるっていくものだというお寺での法話を支えにSさんのご主人は、倒れても杖で立ち上がり、お寺に通っておられた姿を思い出します。法話を奥様にお話しされていたんですね。「私も楽天家として人生を歩んでいきます。今日、良き法話をありがとうございました。」

山内様 「ブラジル、ハワイ、日本と、ガン治療に携わってきました。本日の

法話で、世に役立つ本を發行することが大切と痛感いたしました。私の世界に出せるのは英文(の論文)です。が……」

三寶寺出版部で相談した結果、菩薩行としての将来のターミナルケアを検討するにあたり、山内様の御協力をいただき、ゼロから有を作り出され、ブラジル、ハワイで病院建設、医師を育成されてきたという実践内容を出版させていただきます。それが世の中を救うひとつの手引きになることでしょうか。山内様には、後日お願いに上がりたいと思います。皆さまご期待ください。

川浦様 「信心が薄いので、風雪を耐え仏法を興隆された本山への瓦懇志はもう少しご遠慮したいのです。私が次の世代を受け継ぐという意味で三寶寺へはお花料として送金させていただきました。これからご法事をお願い申し上げます。」

深町様 「障り多きは徳多しです。」

富野様 今年もお料理をご持参下さり、心豊かに、力が身につきました。



心に如来を思うとき